

早稲田大学における キャンパス整備について



2008年12月4日
早稲田大学文化推進部
尾崎健夫

構 成

1. 本学のキャンパスの概要
2. キャンパス整備指針の作成
3. FM導入WGの活動
4. 最近の建設プロジェクト
(大隈講堂改修、26号館、27号館、8号館)
5. キャンパス整備とそのFMについての考察

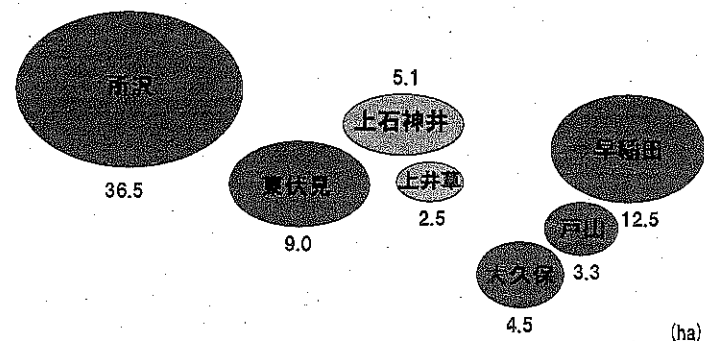
1. 本学のキャンパスの概要

1) 基本データについて

・創立	1882年
・大学院	21
・学部	13
・学生数	57,652名
・専任教員・助手	2,023名
・専任職員	764名
・専任以外職員	136名
・キャンパス所有面積	約210ha
・建物面積	約58ha

2) 各キャンパスについて

●都市型、郊外型キャンパス



●都市連携型、遠隔地キャンパス 本庄87.3、軽井沢17.2、鴨川9.6、その他

3) 早稲田キャンパスについて



2. キャンパス整備指針の作成 (1995年～2006年)

第1章 指針作成の目的

第2章 キャンパス空間の歴史

- 2-1 空間の変遷史, 2-2 校友にとっての原風景,
- 2-3 佐藤功一の都市美論とキャンパス景観

第3章 キャンパス空間の現状と課題

- 3-1 キャンパス空間構成原理, 3-2 構内環境, 3-3 外部空間, 3-4 建築,
- 3-5 人のアクティビティ, 3-6 サーキュレーションおよび安全と避難, 他

第4章 キャンパス整備のための指針

- 4-1 基本構成, 4-2 構内環境, 4-3 外部空間, 4-4 建築, 4-5 人のアクティビティ,
- 4-6 サーキュレーションおよび安全と避難, 4-7 各施設の更新,
- 4-8 キャンパス周辺, 他

第5章 キャンパス整備のためのケース・スタディ

第6章 指針の推進について

.....
キャンパス整備指針(設備編)

2-1. 早稲田キャンパス整備指針について

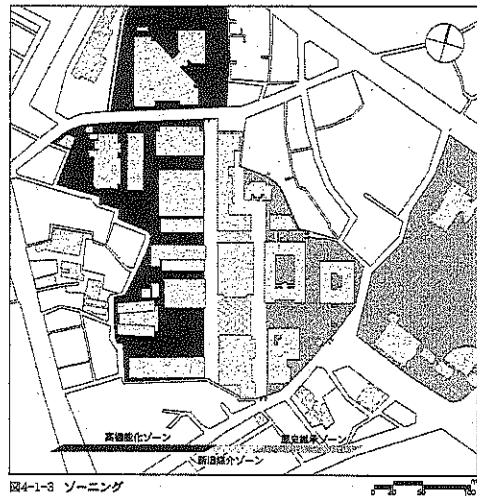


図4-1-3 ゾーニング

6

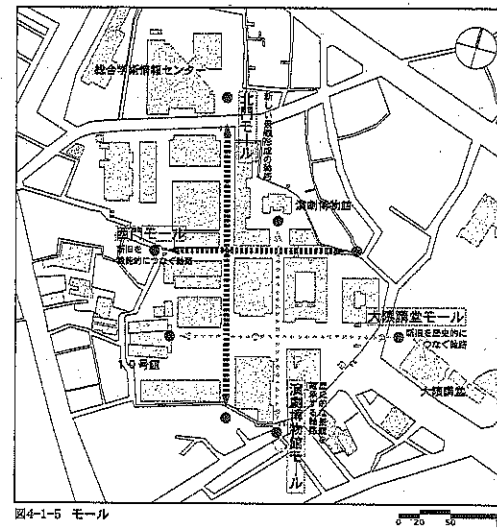
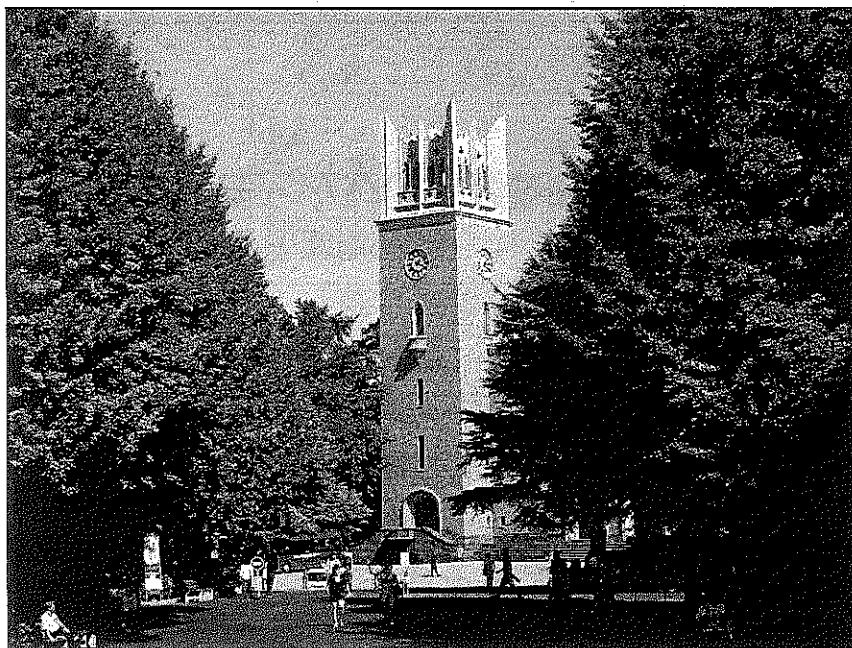


図4-1-5 モール

7



3. FM導入WGの活動

(1995年～1998年)

1. 現有資産分析チーム [静的]
2. 維持管理コスト分析チーム [動的]
3. 施設利用状況分析チーム [動的]
4. FMシステム導入検討チーム

3-1.FMに関する学内の主な組織

- 1) 教務部教務課
同 情報企画課
- 2) 総務部総務課
同 環境安全管理課
- 3) 財務部財務課
- 4) キャンパス企画部企画・建設課

10

4-1. 大隈講堂(改修)

【創立125周年記念事業】

工期 : 2006年6月～2007年9月
(重要文化財指定 2007年12月)

敷地面積 : 21,544.61㎡
建築面積 : 1,225.95㎡
延床面積 : 3,709.65㎡
最高高さ : 37.605m(125尺)
構造 : 鉄骨鉄筋コンクリート造
鉄筋コンクリート造
階数 : 地下1階 地上3階 塔屋1階

11

4-1-1. 改修前の大隈講堂の設計、竣工について

- ・設計者 佐藤功一
佐藤武夫
(構造 内藤多仲)
(音響 黒川兼三郎)
- ・竣工 1927年
【創立45周年記念事業】

12

4-1-2. 建築家(設計者)とその業績、作品について

・佐藤功一(1878~1941)

1909年 欧米視察
1910年[明治43] 建築科設立
[初代建築科主任教授]
住宅、都市美論、キャンパス整備など

・佐藤武夫(1899~1972)

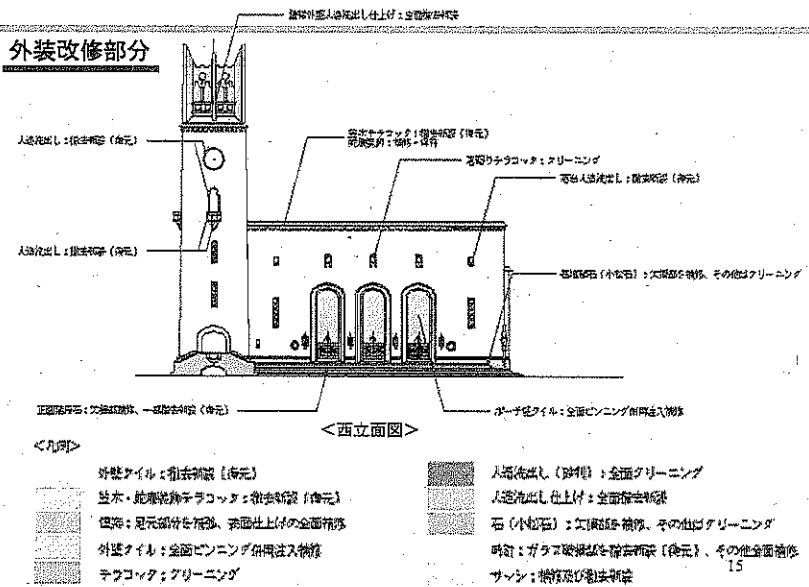
建築音響学の研究、多くの公共建築の設計
など
佐藤武夫設計事務所設立

13

4-1-3. 改修の基本方針について

- | | |
|------|---|
| 全体方針 | (1) 意匠の保存・継承
(2) 耐久性、安全性、快適性、耐震性能の向上 |
| 大講堂 | (1) 意匠の保存・継承
(2) 快適な環境を整える設備更新
(3) 多様な演目に対応できる機能の獲得 |
| 小講堂 | (1) 多機能型映像ホールへの再生
(2) 多くの学生・教職員の利用を許容する設備 |

外装改修部分



4-2. 26号館(α棟)

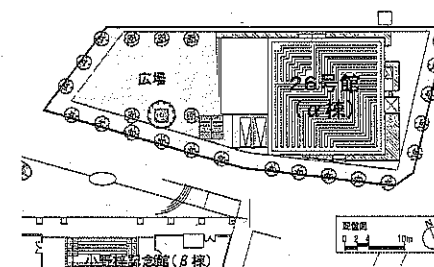
工期 : 2004年4月～2006年1月
敷地面積 : 1,388.82m²
建築面積 : 385.10m²
延床面積 : 7,196.20m²
最高高さ : 75.75m(250尺)
構造 : 鉄骨造(CFT造)
 : 地下部鉄骨鉄筋コンクリート造
階数 : 地下2階・地上18階

16

広場・配置・高さ

- α棟の配置は、小野梓記念館(β棟)とともに、大隈講堂を基準とした軸線に合わせて、大隈講堂と対峙している。

α棟は、総合設計制度(新宿区許可第1号)による容積率の緩和(400→520%)と、高さ制限の緩和を受け、公開空地を広く取ることにより、250尺(75.75m)の高さの設定をした。ワセダ第一世紀のシンボル、125尺(大隈講堂時計塔)に対して、これからの125年、ワセダ第二世紀への願いを250尺(125尺+125尺)の高さで表現した。



17

4-3. 27号館(β棟:小野梓記念館)

工 期:2003年6月~2005年1月

敷地面積: 2,337.51m²

建築面積: 1,415.85m²

延床面積: 8,571.36m²

最高高さ: 19.69m

構造 : 鉄骨鉄筋コンクリート造、
一部鉄筋コンクリート造

階数 : 地下3階・地上4階

18

4-4. 8号館(B棟)

工 期:2002年9月~2005年1月

敷地面積: 73,659.56m²

建築面積: 2,610.31m²

延床面積: 24,150.58m²

最高高さ: 52.10m

構造 : 鉄骨鉄筋コンクリート造
および鉄骨造、
一部鉄筋コンクリート造

階数 : 地下2階・地上12階

19

5. キャンパス整備とそのFMについての考察

- 1) 安全は、全てに優先する。
定期診断(報告)と最新の知見の獲得が必要。
- 2) 事業継続計画 (Operation Continuity Plan) は、今後、重要なキーワードになるであろう。
例) 災害、事故、事件、他への対策、対応
- 3) 学究的なロマンとキャンパスFMの考え方の間には、調整が必要になることがある。

20

- 4) コスト削減は重要なテーマだが、大学としての役割、中長期的な視点を踏まえるべき。
- 5) アウトソーシングは時代の流れだが、隙を作らないようにしたい。
- 6) 省エネ活動は永遠に続くであろう。
環境マネジメントシステムは更新可能なものであるか否かが鍵。
- 7) 郊外キャンパスでの自然環境対策は、特別な配慮が必要になることがある。
- 8) キャンパスにおける特色ある歴史的建造物は、保存、再生のあり方についての検討が必要。

21